



東北大学

平成22年5月19日

報道機関各位

東北大学大学院薬学研究科

東北大学大学院医学系研究科

東北大学病院

受動喫煙は地域住民の血圧を上げる
—岩手県大迫研究から世界初の成績報告—
「受動喫煙対策の強化が急がれる」

東北大学大学院薬学研究科の今井潤教授・大久保孝義准教授と、医学系研究科環境保健医学分野、東北大学病院メディカル IT センターのグループは、岩手県花巻市大迫町における血圧・循環器疾患調査により、受動喫煙を受けている女性は、受動喫煙を受けていない女性より家庭血圧が高いことを明らかにしましたのでお知らせします。なお、本研究結果は、国際高血圧学会誌 *Journal of Hypertension* に掲載され、電子版が公開されています。

喫煙が肺がんをはじめとした様々な病気の原因となることはよく知られた事実ですが、非喫煙者が周囲のタバコの煙を吸わされる受動喫煙によっても、がんや循環器疾患が引き起こされることが明らかとなってきています。また、受動喫煙により、血管の収縮・拡張機能が低下することが報告されています。これは血管による血圧の調節機構がうまく働かなくなり、血圧が上昇する可能性がある、ということです。

しかし、受動喫煙によって血圧が上昇するかどうかについてはこれまで明らかではありませんでした。そこで本研究では、より長期間にわたって安定した血圧を測定できる家庭血圧に着目し、血圧と受動喫煙との関連を検討しました。

本研究は、大迫町で家庭血圧測定にご協力いただき、かつ受動喫煙に関する設問を含む生活習慣調査にご協力いただいた喫煙していない 579 人の女性が対象です。分析の結果、受動喫煙の無い人と比べ、家・職場の両方で受動喫煙を受ける人の収縮期血圧(最高血圧)は、およそ 4 mmHg 高いことがわかりました。また、毎日受動喫煙を受ける人は、受動喫煙の無い人よりも、やはり収縮期血圧が 4 mmHg 近く高いことがわかりました。もちろん、これは世界で初めて明らかにされたことです。わずか 4 mmHg と思われるかもしれませんが、この 4 mmHg の血圧上昇は、国民の公衆衛生に極めて大きな影響を与えるものです。国民全体の平均収縮期血圧が 2 mmHg 低下すれば、脳卒中による死亡を 9000 人減らせるといわれています。

収縮期血圧の上昇は、脳卒中を含めた循環器疾患の主要な危険因子です。受動喫煙によって血圧が上昇し、循環器疾患のリスクを高めると考えられます。疾病予防のためにも、早急にこれまで以上の受動喫煙対策を講じる必要があると考えられます。

※当研究成果は「平成 21 年度厚生労働省科学研究費補助金『大規模コホート共同研究による生活習慣病発症予防データベース構築とその高度利用に関する研究』」、「公益信託日本動脈硬化予防研究基金平成 21 年度研究助成『動脈硬化性疾患の発症要因に関する疫学的長期追跡研究』」の支援により得られました。

(お問い合わせ先)

東北大学 大学院薬学研究科 医薬開発構想講座

教授 今井 潤

電話番号：022-717-7770

E-mail：rinsyo@mail.pharm.tohoku.ac.jp

東北大学病院 メディカル IT センター

助教 井上 隆輔

電話番号：022-717-7504

E-mail：rinoue@sic.med.tohoku.ac.jp